

大阪

あんなとこ
こんなとこ

『四つ橋』

心齋橋の西側、四つ橋筋と長堀通りの交差点。普段何気なく通り過ぎている石碑にふと目を留めると、そこには昔の四つ橋の景観が描かれていました。ビルに囲まれた現在の四つ橋からは思いも付かぬ風景に心引かれ、今回は四つ橋について調べてみました。

大坂の名所

この地が四つ橋となったのは、江戸初期、開削された西横堀川と長堀川が交差する場所に炭屋橋（東）、吉野屋橋（西）、下繫橋（南）、上繫橋（北）の四つの橋が、架けられ「四つ橋」と呼ばれ始めたことに由来するそうです。

四つの橋が二つの川に井の字型に架かっている珍しさから『大阪名所独案内』に「浪花一奇観の勝地」と書かれ、夏は納涼、秋は観月の名所として賑わいました。大坂の名所として親しまれていた四つ橋は、落語の演目『辻占茶屋』に登場するほか、俳句の題材にもよく用いられ、小西来山の「すずしさに 四つ橋をよつ わたりけり」、上島鬼貫の「後の月入て貌よし 星の空」などが知られます。

また、この付近には煙管を商う店があり、名産「四つ橋煙管」として知られていたそうです。「摂津名所図会大成」には「此地の名物として煙管店軒をならべ、種々様々の形せし品ありて、買手の望みに任ず」と書かれています。

ダイヤモンドクロッシング

明治41年、四つ橋の北西角に、市電の東西線（九条―四つ橋間）と南北線（梅田―難波間）を結ぶ交差点が完成しました。市電の架線と地面のレールがひし形を組み合わせたような形に見え、「ダイヤモンドクロッシング」と名付けられたそうです。当時は、市電がここをポイントに、東西南北に曲がり進む様子、電車と電車が衝突もせずすれ違う事が珍しがられて、大勢の見物人が押しかけたそうです。

昭和39年に西横堀川が、続いて昭和45年に長堀川が埋め立てられ、四つの橋のすべてがその姿を失いました。今も多くの人や車が行き交う四つ橋で、石碑だけが当時の面影を残しています。



旧名所四つ橋筋の石碑

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

（株）ファッションビジネス・御堂筋新聞